

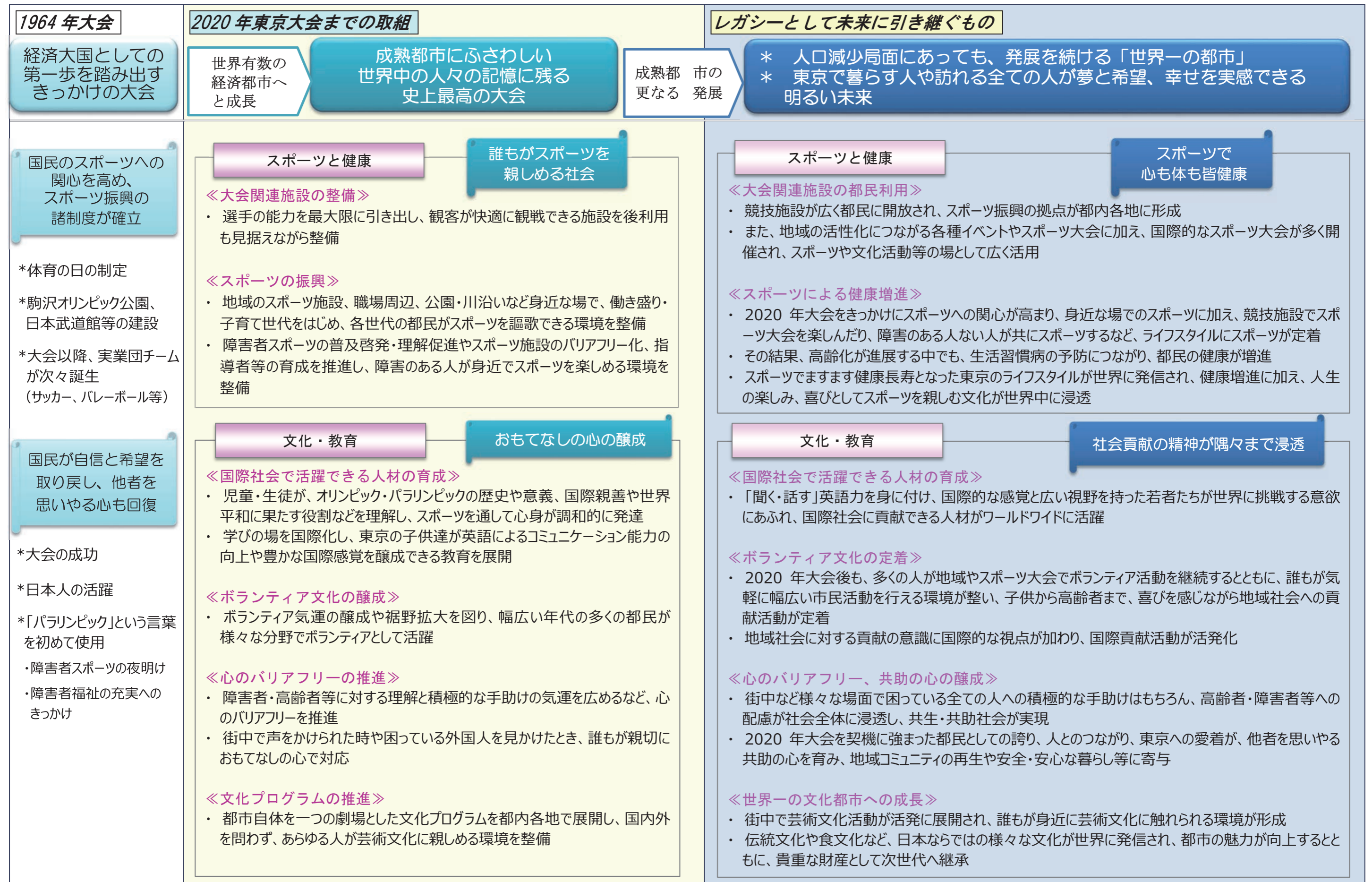
オリンピック・パラリンピックによって もたらされるレガシー

《「東京都長期ビジョン」で示すレガシーの考え方》

- オリンピック・パラリンピックをきっかけに東京がどのように変わっていくのか、長期ビジョンに掲げている 2020 年大会に向けた政策が将来、どのように実を結び、後世に残されていくのか、計画期間の 10 年後の更なる先をも見据え、都市としてのあるべき姿、理想とする姿について、基本的な方向性を分かりやすく示したものである。

- また、長期ビジョンで明らかにした東京の将来像を形づくる有形・無形のレガシーを具現化していくため、民間の意見を聞きながら、知事・副知事・関係局長で構成する「レガシー委員会」で検討を進め、2015 年度に「レガシービジョン（仮称）」を策定し、レガシーの全体像を示す。

オリンピック・パラリンピックによってもたらされるレガシー >> 後世に残され、未来に引き継がれる都民共通の財産



1964 年大会

欧米先進諸国に比肩し
高度経済成長を支える
都市基盤の形成

- *首都高速道路、東海道
新幹線 建設
- *地下鉄の相次ぐ新線開業
- *東京国際空港の拡張
(旧C滑走路の新設)
など



- *都心部と副都心からなる
多心型都市構造の基礎
形成
(新宿、渋谷周辺の
都市基盤の充実等)

- *トイレやレストランを示す
ピクトグラムの考案



2020 年東京大会までの取組

街づくり

成熟都市にふさわしい
高機能で上質な都市空間

《バリアフリー化や多言語化の推進》

- ・観光地や競技会場周辺等の道路や鉄道駅のバリアフリー化により、高齢者や障害者を含め、国内外から訪れる人々が安全で円滑に移動できる環境を整備
- ・多様な主体の連携・協働、Wi-Fi やデジタルサイネージといった最新の通信技術などの活用により、競技会場周辺や観光地をはじめ、交通機関、公共空間などで多言語対応を展開し、外国人旅行者が言葉の壁を感じることのない、快適な東京滞在を提供

《まちづくりの推進》

- ・競技会場が集中する臨海部で、広域的な基盤整備とともに、競技会場、選手村の整備、豊洲新市場関連施設の整備と一体となったまちづくりを推進
- ・神宮外苑の歴史的な景観や緑地等の保全に配慮して、新国立競技場が完成
- ・多くの人々が利用する東京、渋谷、新宿などの拠点駅で、駅前広場の再編や自由通路の整備が進められ交通結節機能が強化

《美しい街並みの形成》

- ・センター・コア・エリア内の都道等での無電柱化を実現するとともに、国道、区市道でも無電柱化を推進

《交通インフラの整備、新しい交通体系の構築》

- ・三環状道路の整備や臨海部の交通インフラの充実、海外から人々を受け入れる羽田空港の機能強化、大型クルーズ客船ふ頭の整備等を進め、確実な大会運営を下支え
- ・交通インフラの充実とあわせ、鉄道やバスなど交通手段相互の連携や、道路空間・水辺空間の利活用の工夫など、成熟社会にふさわしい交通政策を推進
- ・オープンカフェなどで賑わう歩行者空間の創出や、シェアサイクルの広域化を進め、快適な都市空間を提供

《安全・安心の確保》

- ・都市の防災力強化、緊急時の避難所確保や危機管理体制の構築等を総合的に推進し、世界中から訪れる人々に、安全・安心な都市機能・空間を提供
- ・サイバー、NBC などのテロ対策に万全を期し、「世界で最も安全な都市・東京」を PR

レガシーとして未来に引き継ぐもの

街づくり

少子高齢社会に対応した
活気ある未来都市

《ユニバーサルデザイン先進都市の実現》

- ・多くの人々が日常的に利用する公共空間や公共施設のバリアフリー化が更に進み、超高齢社会に対応した誰もが安全で安心して街歩きできる環境が整備
- ・無料 Wi-Fi やデジタルサイネージ、自動翻訳、おもてなしロボットなどの最新技術による多言語対応の取組が都内各地で多角的に進展し、外国人が不満や不安なく安心して滞在できる環境を創出

《新たな未来型都市の誕生》

- ・臨海部では、2020 年大会後もまちづくりが進み、東京の発展を象徴する国際ビジネス拠点と MICE・国際観光拠点が形成
- ・国立競技場の建替えを契機として、既存スポーツ施設や関連施設等の更新が進み、新たな魅力、にぎわい、風格をかね備えたスポーツクラスターが形成
- ・拠点駅を中心とした再編が進展することで利便性が一段と強化され、多くの人々が快適に訪れることができるまちに発展
- ・2020 年大会後も、高度経済成長期に形成された市街地の円滑な更新や、都内各地での街づくりによる都市機能の一層の集積により、将来にわたる東京の発展を支える持続可能な都市が実現

《世界一の都市にふさわしい街並みの形成》

- ・2020 年大会後も無電柱化の取組が進められ、技術の進歩と相まって、東京の道路から電柱がなくなるとともに、首都高速道路は景観を阻害することなく街並みに溶け込み、高度な都市機能を保ちながら空を見渡せる美しい街が実現
- ・無秩序な屋外広告がなくなり、風格漂う都市景観が実現
- ・歴史的な建造物と近代的な建物が時代を超えて共存する街並みが実現

《高度な都市インフラに支えられた世界一便利で快適な都市の形成》

- ・三環状道路の完成等により、都心に集中する交通を外側の環状道路に分散することなどで、東京の弱点である渋滞が解消し、自動車移動のストレスを感じない都市が実現
- ・羽田空港の更なる国際化、東京港の再構築と併せ、陸・海・空を結ぶネットワークが一段と強化され、国際競争力が向上
- ・交通手段の違いを意識せず、快適に移動できる公共空間を実現するとともに、自転車利用をより気軽に便利にするなど、利用者視点に立った交通体系が構築され、東京が新たなライフスタイルを楽しめる街に変貌

《世界一の安全・安心な都市の実現》

- ・都市基盤の着実な整備などにより、未来に渡る都市の安全性が確保され、都市機能が麻痺、低下することなく、東京の持続的発展を下支え
- ・防災訓練や防災教育を通じて、都民一人ひとりの防災力、防災意識が強化されるとともに、地域の連帯力が高まり、「助け合う」社会が実現
- ・大会の成功を通じて官民が一体となった危機管理体制が確立され、身近な犯罪の対策も進み、国内外の人々が東京の治安の良さや生活の安心を実感

1964 年大会

住みやすい
生活環境の形成

*上下水道、
ごみ焼却施設 の整備

* 隅田川等の浄化

2020 年大会までの取組

サステナビリティ

快適で安心・安全な
住環境

《スマートエネルギー化の推進》

- 選手村では、スマートエネルギー都市のモデル実現を目指すとともに、水素エネルギーの活用などの取組により、持続的発展が可能な都市像を国内外に提示
- 選手村での活用など、2020 年大会を契機として、排気ガスを発生しない燃料電池車など、無公害車の導入を加速

《水と緑のネットワークの形成》

- 選手村では、くつろげる環境を確保するため、緑に囲まれた中庭や広場、水際を整備するとともに、植栽や屋上緑化、壁面緑化で潤いある緑空間を提供
- 水質改善や水辺空間整備を進め、都民が水辺に親しむ環境を拡大

《暑さ対策の推進》

- マラソンコースや競技会場周辺における道路の遮熱性舗装、緑地、ドライ型ミスト等の環境技術を活用した整備を進めて、選手や観客の暑さを和らげ、真夏の開催に対応
- 会場周辺においても、夏の暑さを緩和するクールスポットの創出や、事業者、都民と連携したヒートアイランド対策の推進により、真夏でも人々が安心して過ごせる環境を提供

レガシーとして未来に引き継ぐもの

サステナビリティ

環境配慮と都市機能強化の
未来に渡る両立

《環境に配慮し持続可能性を備えた都市の実現》

- 都心に近接している選手村及びその周辺では、スマートエネルギー化の取組が更に進み、緑にあふれた環境配慮型の街が実現
- 選手村の取組をモデルとし、住宅やビルでの省エネルギー化やエネルギーマネジメントが普及・拡大し、東京全体がスマートエネルギー都市に進化
- 都内を走る自動車は、燃料電池車や電気自動車などの無公害車となり、更に大気の澄んだ街が実現
- 輸送や家庭生活上で水素エネルギーの活用が拡大し、環境負荷の極めて少ない水素社会が実現

《水と緑に囲まれた環境都市の実現》

- 水と緑のネットワークがさらに充実し、高度な都市機能を有しながら自然環境と共生した魅力的で快適な都市環境が実現
- 2020 年大会を契機に進んだ都市の緑化が更に進み、自然豊かな都市空間が形成
- 身近な水辺における水質や水量が回復され、「水の都東京」が復活

《東京の熱環境の更なる改善》

- 屋外競技の会場となった施設では、大会向けの暑さ対策が引き続き活用され、真夏でも利用者が感じる暑さが軽減
- 大会に向けた取組が注目を集め、その後、都内各地で暑さ対策が展開され、心地よく街歩きを楽しめる環境が実現



先進技術
サステナビリティ



スポーツと健康

おもてなしの心、多言語化

文化・教育



まちづくり

1964年大会

高度経済成長を実現し
敗戦国から、
「経済大国」
「技術大国」
として先進国の
仲間入り

*所得倍増計画、
オリンピック特需

*新規産業の創出
・民間警備業
(選手村の警備～)

・ファミリーレストランの原点
(選手村での冷凍食品
活用、一度に大量料理)

*カラーテレビの普及拡大
(開会式、閉会式等で
カラー放送)

*世界標準となった新技術
・公式記録のリアルタイム
一括管理システム
(金融機関のオンライン
システムや自動車生産
管理システムに応用)

・デジタルストップクロック
(クォーツ時計の実用化)

戦後復興をアピール
し、日本のイメージ
が向上

*衛星放送によるテレビ生
中継開始

*日本の姿を生中継で
世界に発信

2020年大会までの取組

経済・テクノロジー

世界をリードする 国際経済都市

《国際観光都市へと飛躍》

- ・ 大会開催決定を契機として、観光プロモーションの強化、受入環境の充実、魅力的な観光資源の開発を進め、年間 1,500 万人の外国人旅行者で賑わう国際観光都市を実現

《グローバルビジネス都市の創造》

- ・ 2020 年大会開催都市としての高い注目度を活かし、東京の技術力や市場の魅力をアピールして世界から資本・人材・情報の集積を促進
- ・ 2020 年大会を東京の技術力のショーケースとし、最先端の科学技術や中小企業などが有する優れたものづくり技術を世界中に発信

《潜在的労働力の活用促進》

- ・ 2020 年大会に伴う大きな雇用誘発により、女性・高齢者など、多くの人が能力を発揮し、活躍

《先端技術のショーケース》

- ・ 燃料電池車の活用など次世代エネルギーである水素エネルギーの導入、ロボット技術や自動翻訳技術の活用、通信技術の革新等を進め、2020 年大会をこれら先端技術のまたとない実証実験の機会と捉え、国と一体となって開発を推進

全国の発展・世界に向けた発信

地方との共生、 日本の魅力アピール

《被災地支援、地方の活力向上》

- ・ 招致成功から大会開催までの復興の軌跡を継続的に世界に発信
- ・ 日本各地での事前合宿等の誘致や聖火リレーなど、オールジャパンで開催に向けて取り組み、大会を盛り上げ
- ・ オリンピックの機会を捉え、地方の魅力と東京に集まる富や知恵と結び付け、ともに都市の活力を向上する Win-Win の関係を構築

《国際交流、世界への魅力アピール》

- ・ 都が派遣するスポーツ指導者が、海外都市の競技力向上の一翼を担うなど、様々な分野で交流を推進
- ・ 大会をきっかけに進化し、変貌を遂げる東京の姿、魅力を世界に発信

レガシーとして未来に引き継ぐもの

経済・テクノロジー

世界中からヒト・モノ・カネが集まる 観光・ビジネス都市

《世界有数の観光都市の実現》

- ・ あらゆるチャンネルにより、旅行地、MICE 開催都市としての東京の魅力が全世界に浸透し、東京が「一度は行ってみたい」「もう一度訪れたい」憧れの都市としての地位を確立
- ・ 伝統・文化や景観、ショッピング・街歩き等、成熟都市としての東京の魅力・奥深さが世界中を魅了

《世界一の経済都市の実現》

- ・ 資本・人材・情報の集積を更に進め、富を絶えず作り出す世界一のビジネス都市を実現し、日本経済の持続的発展を牽引
- ・ 東京の優れた技術力や製品が世界中に認知され、グローバル市場を席卷

《女性や高齢者などがいたるところで活躍》

- ・ あらゆる分野において、女性や高齢者などが活躍できる働き方の仕組みが整備され、観光都市・産業都市として東京に多く集積する様々な雇用ニーズに対応し、全ての人が多様な働き方で活躍

《先端技術の実用化》

- ・ 2020 年大会における取組の検証・分析とともに、開発・研究を更に進め、先端技術の汎用化、実用化を実現
- ・ 障害者スポーツにおける義肢・義足・用具等の開発やアスリートのトレーニングに関する科学技術が、障害者や高齢者の日常生活を支える技術に応用され、活動範囲が拡大

全国の発展・世界に向けた発信

国内外の各都市とともに発展

《日本全国の発展》

- ・ 被災地での国際交流事業など、大会のレガシーを活用したスポーツ振興を通じて、被災地の都市力が向上するとともに、復興の軌跡発信により、震災・復興の記憶が風化されることなく次世代に継承
- ・ 東京と地方がともに発展を続ける新たな関係が構築され、活気に満ちた社会が確立

《国際交流・国際貢献の活発化》

- ・ 都が指導者を派遣した海外都市では、国際大会で活躍するアスリートが輩出されるなど、スポーツを通じた国際貢献が活発化
- ・ 東京が発展を続けるだけでなく、世界各都市との連携・交流が官民の区別なく多方面で展開され、この活動を通じて、世界の各都市の発展に貢献